

黒帯になれた今

堂園 美里

私は空手を始めてから、六年がたちました。初めて体験したときは、すごく緊張しました。帯が上の先輩ばかりで少し怖かったのですが、みなさん優しくとても安心しました。その頃私は、あまり自分から話しかけたりするタイプではありませんでした。でも、周りのみなさんが声をかけてくれたことはとてもうれしくて、今でも覚えています。そして稽古を少しずつ覚えて、初めて型というのを見たとき、「カッコイイ」と素直に思いました。私は早く出来たらいいなと思っていました。でもそれから茶帯の先輩方が『撃砕小』という型をされていたときはもう、本当に自分もやりたいという意欲がわき、最初は本当に見よう見まねでやっていた。でもちゃんとした動きや細かいところを教えてもらい、きちんとできたときは、すごくうれしかったです。そこから私は型が好きになりました。そして帯があがるにつれていろいろな型を覚えたときも、自慢するかのように父や母に見せたりしていました。そして師範に「型の試合にも出てみなさい。」と言われたときに、うれしい反面、出てもみんな上手な子ばかりやから、負けるに決まってると思っていて、すすめられた試合にも出ずに終わることが多々ありました。今になると、あのとき出ていればよかったなあと思いました。

あるとき師範に、「最初から負けることを考えると、勝てるわけがない。負けたとしても、今の自分の実力がどんなものかと理解してみるのも一つの勉強だよ。」と言われたときに、私は負けることばかりを考えずに、一度でも出してみようと思いました。すると意外な結果でとてもうれしかったです。それから自分の得意型を見つけて、必死に練習しました。結果はダメでしたが、自分のためになったなあと思いました。私は師範のあの言葉のおかげで、一步踏み出す勇気が出ました。そこから私は勇気を出して、以前よりいろいろできるようになりました。

師範は、いろいろな自分のためになる話をよくしてください。その話の中で、自分を改めないとダメなことを聞いたりします。なので、師範が話してくださったこと、先生方が話してくださったことを心において、これからも頑張っていきたいと思います。そして、責任感があり、頼りがいのある黒帯の先輩になれるように、日々鍛錬していきたいと思います。そして初心を忘れずこれから頑張りたいです。押忍！